日本のゴルフ発祥地から ゴルフの伝統と本来の楽しさを発信

(一社)神戸ゴルフ倶楽部　支配人
池戸　秀行 氏

日本におけるゴルフ発祥の地として知られる神戸ゴルフ倶楽部。支配人を務める池戸秀行氏に、その歴史を振り返ってもらうとともに、ゴルフ発祥の地である神戸をどのように発信していくのか聞いた。

──日本で最初のゴルフ場が出来た理由は

1868年に神戸港が開港すると、居留地ができ外国人が暮らし始めました。その一人、お茶の貿易などで成功していたA.H.グルームは、避暑の目的で六甲山上に山荘を建てます。当時の六甲山は木々が燃料として伐採されており、いわゆる禿山でした。むき出しになった起伏のある地形を見ながら、同郷の友人と山荘で語らううち、故郷・スコットランドにあるような自然を生かしたゴルフ場を作れないかということを思いつきました。もし六甲山が森林に覆われていたら、わざわざ伐採してまでゴルフ場を作ろうとは思わなかったでしょう。

構想から7年後の1903年、9ホールのコースが完成し、日本で最初のゴルフ場「神戸ゴルフ倶楽部」が誕生しました。

──117年の長い歴史があります

日本では数多くのスポーツの発祥が語られますが、あくまで説に基づいているもの、石碑が残っているだけ、というものも少なくありません。発祥から現在に至るまで、当倶楽部のように施設や記録がしっかりと残っていることはかなり珍しく、堂々と発祥の地と言えることが誇りです。

今まで存続してきたことは、いくつかの偶然や奇跡が重なっています。グルームの配慮も大きいでしょう。当時、外国人の土地所有は認められていませんでしたが、妻が宮崎直という日本人女性だったので、その親戚から土地を借りる形をとり、摩擦を避けました。1903年5月に行われた当倶楽部の開場式では、当時の服部一三兵庫県知事が始球式を行うなど、日本人に受け入れてもらう気配りも欠かしていません。

また、クラブメンバーの支援や理解も存続の大きい要因です。冬場は積雪のためにコースは閉鎖となりますが、年中開いてほしいという要請があれば、さらなる開発が必要でそれが摩擦を引き起こしていたかもしれませんし、経営難になっていれば経営権が他に移り、存続していなかったかもしれません。

開場した頃、ゴルフを楽しむ外国人ら

──神戸ゴルフ倶楽部が日本のゴルフ界に及ぼした影響は

イギリスに留学した日本人がゴルフを覚え、帰国後に神戸ゴルフ倶楽部でプレーを楽しみ、その人たちが全国に散っていったことで、東京ゴルフ倶楽部（1913年開設）など全国のゴルフ場開設につながっていきました。また、冬季にプレーできない間の代替場所として、1904年、W.J.ロビンソンが神戸都心に近い魚崎町横屋に「横屋ゴルフ倶楽部」を6ホールで開き、のちに鳴尾浜に移転して「鳴尾ゴルフ倶楽部」が誕生しました。

イギリスのゴルフの聖地、セント・アンドリュースのクラブハウスに当倶楽部のことが記されているそうです。イギリス人のスポーツであるゴルフを、はるか極東の地で根付かせたことを彼らも誇りに思っているのでしょう。セント・アンドリュースでプレーされた日本人の方がそのことを知って、当倶楽部でプレーをしたいと来られたこともあります。

──神戸ゴルフ倶楽部ならではの流儀は

倶楽部のロッカーにはカギはありません。キャディはいますがカートが無いため、持ち込めるクラブの数は10本以内と制限を設けています。コースのあちこちはクマザサに覆われ、雨や霧、強風のコンディションもあります。

大人ももちろんですが、ゴルフ部の高校生・大学生らの若い世代に、ぜひ当倶楽部でプレーを体験してほしいと思っており、定期的に招待もしています。天候を含めた自然環境を感じながらベストを尽くすことが本来のゴルフの楽しみだということを体感してもらうためです。繁みにボールを打ち込んだ時、ゴルフ場のコンディションに文句を言うのではなく、そこに打ち込んだ自分の責任なのです。ゴルフ場が人に合わせるのではなく、人がそれぞれの環境に合わせてプレーする、ゴルフの原点に立った伝統をこれからも守っていきたいと思います。

117年前の復元したサンドグリーンでパターをするレオンハート理事長

──このほど、サンドグリーンを再現されました

開場当初はグリーンもティーグラウンドも砂地でした。その後苦労しながら芝のグリーンへ変えていったのですが、このほどサンドグリーンを練習グリーン横に再現しました。サンドグリーンをならすローラーが古い写真の中に残っているのですが、これも見つかり併せて展示しています。この歴史的意義のあるサンドグリーンを広く情報発信するため、4月9日に初めてメディア向けのプレオープンゴルフを開催しました。国際スポーツイベントを機に訪日されるゴルフ関係者に、日本のゴルフの発祥地とその歴史を知ってほしいとの思いもあります。

また、当倶楽部のクラブハウスは日本における学校、教会の名建築を残しているW.M.ヴォーリズが唯一設計したものです。風格のある木造クラブハウスが現存していることも併せて発信していきたいですね。

──神戸のゴルフ活性化に向けて

3月27日に、神戸市内にある17のゴルフ場、ゴルフ関連企業、神戸観光局などが参画し、「神戸市ゴルフ協会」が設立されました。神戸が日本のゴルフの発祥地であることを広く発信し、ゴルフツーリズムなどにつなげていくとともに、神戸市民の健康の一助としてゴルフに親しんでもらうための仕掛けも考えていく予定です。

数多くの近代スポーツ発祥の地である神戸にとって、スポーツは大きな財産です。日本におけるゴルフ発祥の地として、ゴルフの魅力やその価値を広く伝えていきたいと思います。

ゴルフの普及・競技人口拡大に取り組む企業の事例をご紹介します

プロダクトから様々な楽しみ方を提供し、ゴルフ継続を応援
朝日ゴルフ㈱

当社は1958年創業、ゴルフ用品メーカーとしては老舗です。当時は富裕層が楽しむスポーツでしたが、1990年代に比較的安価なゴルフクラブを開発し、総合スーパーでの販売を始めるなど、ゴルフの一般大衆化に貢献してきました。その後、海外製品の流入により価格競争が激しくなる中、従来のゴルフクラブの開発販売などに加え、新しい市場開拓に取り組んでいます。

ゴルフを始め、プレーを続けていく上で重要なのが「上達している実感」です。一生懸命練習してもスコアアップせず、「面白くない」と辞めてしまう人は少なくありません。

そこで、自社開発したGPSで距離計測のできる『EAGLE VISION』を通じ、成長と楽しさを体感できるプレーをご提案しています。グリーンまでの距離や自身のボールの飛距離などを把握することは、適切なクラブの選択に繋がります。実際にゴルフ場のイベントで試用してもらうと、スコアが上がったと喜びの声をいただくことが多く、目に見える上達の結果にますますゴルフが楽しくなるようです。

また、ゴルフカートに搭載する『カートナビ』では、コース情報に加え、コンペ開催時に他組の参加者のスコアをリアルタイムで確認することができます。ライバルの動向などが分かって会話の種も増え、仲間と盛り上がることで、これまでにない楽しみ方ができると好評です。

これからも様々なゴルフの楽しみ方をプロダクトを通じて提供することで、ゴルフの裾野拡大、永く続けられるゴルフライフを応援していきたいと思います。

初心者向けイベントを通じてゴルフ人口の裾野拡大へ
Kiss FM KOBE（兵庫エフエム放送㈱）

兵庫県は全国でもトップを争うほど多くのゴルフ場があり、恵まれた環境にあります。当社では県内全域へのラジオ配信を行っていますが、地元にある資産でもっと活用できるもの、情報発信できるものはないかと考え、「ゴルフ」に着目しました。

ゴルフを始めるには技術・知識やマナーなどハードルが高く、二の足を踏む人が多いのが現状です。またゴルフ経験者の中でも、楽しくなかったと辞めてしまう人も少なくありません。何とかゴルフ人口を増やす取り組みができないかと、2016年から裾野を拡げる活動を始めました。

まずは情報提供からと、ゴルフ好きの女性DJがゴルフ場や練習場を訪れ、初心者目線で学べる番組を制作。先入観や不明点を払しょくし、ゴルフを身近に感じてもらうことが目的です。

次のステップでは、初心者向けのコースデビューイベント「Happy Happy Golf」を開催。事前にマナーや持ち物についてまとめたしおりを配布、当日はコースへ出る前に事前練習を行い、ラウンド中のプレールールは簡素化するなど、不安なくゴルフを楽しむ1日を演出することを重視しています。ゴルフ本来の楽しさを知り、参加後に本格的に始める方や再開する方も多く、イベント参加者同士でコースに出るなど、コミュニティ形成にも役立っているようです。

このイベントは2017年から継続的に開催しており、次回の開催で10回目を迎えます。今後も、地域が持つ資産を楽しく活用する企画を提案し続けて参ります。